

龍谷大学におけるセクシュアルマイノリティ の現状とニーズに関するアンケート報告書



2017(平成 29)年 3 月 1 日

龍谷大学人権問題研究委員会

はじめに

龍谷大学は、浄土真宗の精神を建学の精神とし、阿弥陀仏の願いに生かされ、真実の道を歩まれた親鸞聖人の生き方に学び、「真実を求め、真実に生き、真実を顕かにする」ことのできる人間の育成を目標としています。その具現化の方策一つとして、2016年6月に「人権に関する基本方針」を策定し、人種、民族、国籍、ルーツ、宗教、信条、社会的立場、年齢、性別、セクシュアリティ、障がいの有無などにかかわらず、本学に関わるすべての人が差別やハラスメントなどの人権侵害を受けることなく学び、働き、関わり合えることを保障することを明らかにしました。

この「人権に関する基本方針」を検討する過程で、早急に取り組まなければならない人権課題の一つとしてセクシュアルマイノリティの問題を認識し、大学として現状を把握したうえで施策を進めることとなりました。しかし、学生や教職員のセクシュアリティに関する情報が非常に少なかったことや、折しも、2016年8月に、一橋大学の学生が同性愛者であることをアウティング（セクシュアルマイノリティであることを、他の人が、本人の意思を無視して第三者に伝えること）されたことを苦に転落死するという事件が報道されたことから、人の命に関わる問題であるとして緊急にアンケートを実施することに至ったものです。ですからセクシュアルマイノリティの現状とニーズを把握することを目的として実施したものであって、学術研究目的の統計調査としては多くの不備が指摘されるかも知れません。先進的に取り組んでおられる大学の例を参考しつつも、短期間にアンケートを作成したため設問内容などを十分に精査できなかった点もありますが、858人の学生と教職員の協力を得て、龍谷大学だけでなく、社会に対しても重要なエビデンスとなりうる極めて意義深い情報を得ることができました。

アンケート結果からは、龍谷大学に対する切実な願いや期待がひしひしと伝わってくるようであり、まさに身の引き締まる思いです。もちろん、この結果がすべてではなく、様々な理由から回答しなかった人がいるということも理解しておかなければなりません。多様性を認めあう文化を創造するためには息の長い取り組みが必要ですが、このアンケートを通して、誰もがありのままの自分に誇りを持って過ごすことができる大学づくり社会づくりの一助となることを願ってやみません。

ご協力いただきましたみなさまに、お礼を申し上げますとともに、ご指摘やご指導を賜りますれば幸甚です。

龍谷大学人権問題研究委員会
委員長 加藤 博史

目 次

I	アンケートの概要	4
II	アンケート結果の概要	5～6
III	分析編	7～13
IV	資料編	14～33

特記事項 *本アンケートでは、設問 2～3 において「出生時の性と自認する性が一致し異性を好きになる人」および設問 9 において「LGBT の当事者ではないと回答した人」、以外をセクシュアルマイノリティの「当事者」として集計しています。(p5 参照)

自由記述欄の回答については、個人が特定できる記述の一部改変や削除、および文書の調整をおこなった上で、できる限り原文に近い形で掲載しました。なお、重複するコメントや、セクシュアリティと関係がないと考えられるコメントなど、掲載していないコメントがありますのでご了承ください。

I アンケートの概要

実施主体 龍谷大学人権問題研究委員会（事務局：宗教部）

回答期間 2016年11月9日～2016年12月8日

回答方法 大学ポータルによる無記名アンケート

対象者数 龍谷大学の学生及び教職員(学生 21,785 人、教職員 2,720 人)

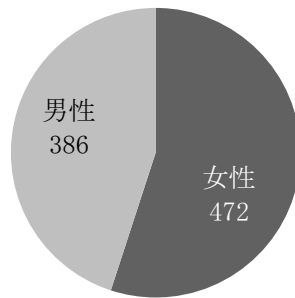
回答者 858 人（学生 710 人、教職員 148 人）

設 問

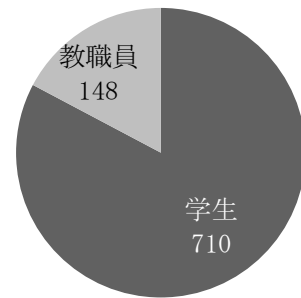
設問 番号	設問タイトル	回答 番号	回答欄
1	あなたの龍谷大学での属性はなんですか。	1	学生
		2	教職員
2	あなたが出生時に戸籍や出生届に記載された性別は何ですか。	1	女性
		2	男性
3	あなたが現在自認している性別は何ですか(性自認)	1	女性
		2	男性
		3	Xジェンダー
		4	その他
		5	わからない
4	あなたが好きになる相手の性は何ですか。(性的指向)	1	女性
		2	男性
		3	性別を問わない・両性
		4	特定の人を好きにならない
		5	その他
		6	わからない
5	学生からのセクシュアリティに関する嘲笑的言動や差別的言動を受けたことや見聞きしたことがありますか。	1	よくある
		2	ときどきある
		3	ほとんどない
		4	まったくない
6	設問5で、「よくある」「ときどきある」と答えた方は、差し支えなければ具体的な状況やそのときの気持ちについて記入してください。	1	(自由記述)
7	教職員からのセクシュアリティに関する嘲笑的言動や差別的言動を受けたことや見聞きしたことがありますか。	1	よくある
		2	ときどきある
		3	ほとんどない
		4	まったくない
8	設問7で、「よくある」「ときどきある」と答えた方は、差し支えなければ具体的な状況やそのときの気持ちについて記入してください。	1	(自由記述)
9	あなたは龍谷大学内でLGBTの当事者以外の人の何人にカミングアウトしていますか。	1	LGBTの当事者ではない
		2	だれにもカミングアウトしていない
		3	1人～4人
		4	5人～9人
		5	10人以上
		6	わからない
10	大学で困っていること、改善してほしいこと、期待することなどがあれば自由にご記入ください。	1	(自由記述)

Ⅱ アンケート結果の概要

1 回答者数 858 人



回答者の出生時の性（単位：人）

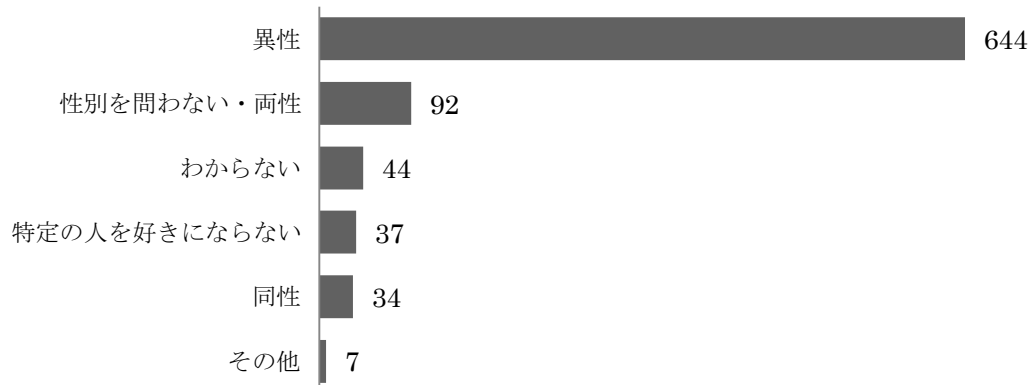


回答者の属性（単位：人）

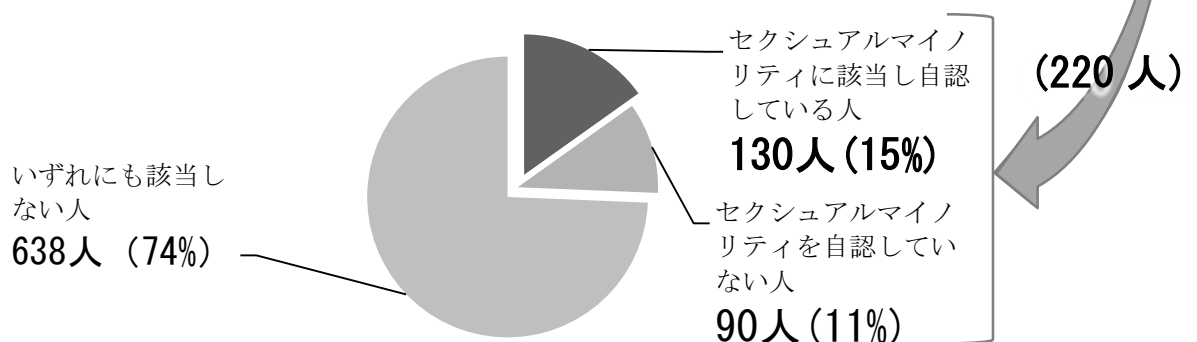
2 自認している性（単位：人）



3 好きになる性（単位：人）

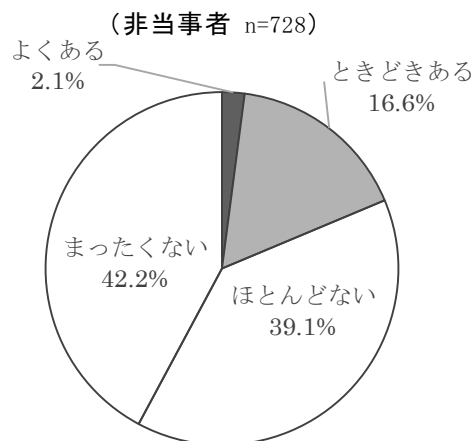
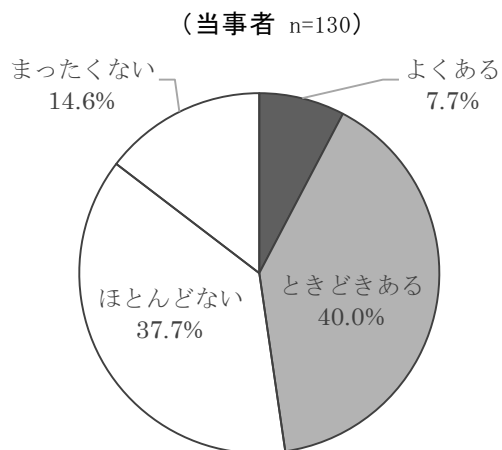


4 セクシュアルマイノリティの自認の状況

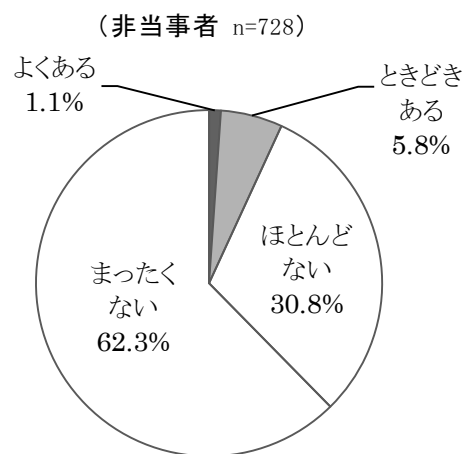
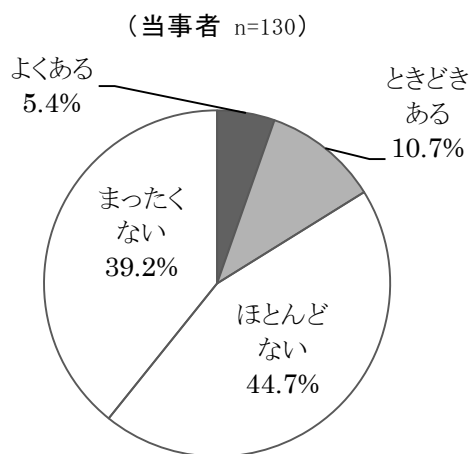


学生・教職員 858 人から回答を得た。集計上は 220 人がセクシュアルマイノリティとみることができるが、そのうちセクシュアルマイノリティを自認している人は 130 人（回答者の 15%。本報告書で「当事者」とする）であった。自認する性や好きになる性を「わからない」と回答した人のほとんどが「出生時の性が女性」の学生であり、自らのセクシュアリティを特定の形であると決定・判断していない状況が見てとれる。

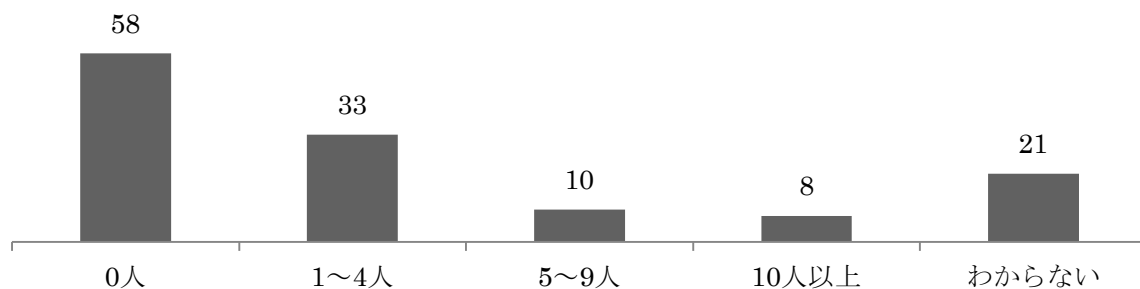
5 学生からの嘲笑言動や差別的言動



6 教職員からの嘲笑言動や差別言動



7 カミングアウトした人数 (単位：人)



セクシュアリティに関する嘲笑言動や差別的言動が、学生からも教職員からも発せられている。その言動に対する気づきや受け止め方は、セクシュアルマイノリティの人と、そうでない人で差異がある。セクシュアルマイノリティを自認する人の 45%が誰にもカミングアウトしていない。ありのままの自分を告白できない状況があり、自己否定や疎外感を感じている人がある。

Ⅲ 分析編

1. 回答者の状況

セクシュアリティは多様であり、セクシュアルマイノリティは身近で当たり前の存在。
セクシュアリティは、他人が決めることではなく、その人自身がどう考えるかが基準になる。
教職員の当事者率が学生より低いことは、職場環境の問題を示している可能性がある。
自らのセクシュアリティを決定・判断していない学生がいると推測できる。

回答総数は 858 人であり、セクシュアリティ（性のあり方）に対する関心の高さがうかがわれます。回答者のセクシュアリティを問う「出生時に戸籍や出生届に記録された性別」、「自認している性別」、「好きになる性別」の 3 項目を集計した結果から、性のあり方がきわめて多様であるということがわかります(p14 参照)。仮に「出生時の性と自認する性が一致し異性を好きになる」と回答した人以外を、セクシュアルマイノリティと考えるならば、全回答者 858 人のうち 220 人が該当します。しかし、該当した人（220 人）のうち 90 人が、別の設問（設問 9）で「LGBT の当事者ではない」と回答しており、必ずしも自らをセクシュアルマイノリティと認めているわけではないと考えられます。セクシュアルマイノリティも LGBT もカテゴリーですので、現行のセクシュアリティ規範に違和感を感じていても、これらのカテゴリーに当てはまらない人々がいる可能性は常にあります。セクシュアリティのあり方を分類に当てはめて考えるのではなく、「その人自身がどう考えているか」ということを基準に考える必要があると言えます。

そこで該当した 220 人から LGBT の当事者ではないと回答した 90 人を差し引いた 130 人（15%）を、本アンケートでは、暫定的に「当事者」としました。これを学生と教職員別々にみまると、学生が 17.3%であるのに対し、教職員では 4.7%という低い結果でした。この理由として教職員におけるいくつかの可能性が考えられます。具体的には、①セクシュアリティを他人に知られることを恐れてアンケートに回答しにくい状況がある。②採用時の選考や職場環境による離職によって、実際にセクシュアルマイノリティの当事者が、龍谷大学教職員には少ない。③セクシュアルマイノリティでない人も、この問題に対する高い関心や責任感から積極的に回答した、などです。仮に①や②が理由であれば、龍谷大学という職場は、セクシュアルマイノリティの当事者にとって、過ごしやすい環境ではないということになります。ところで、「自認する性」や「好きになる性」についての設問で、「わからない」と回答した人の率が「出生時の性が女性」の学生で高くなっています（表 1）。学生の年齢では自らのセクシュアリティが定まっていない人や、揺れ動いていて決定・判断していない人が多いのではないかと推測することができます。

（表 1）性自認または性的指向が「わからない」と回答した人数

	出生時の性		性自認がわからない	性的指向がわからない
学 生	女性	411 人	13 人 (3.2%)	36 人 (8.8%)
	男性	299 人	5 人 (1.7%)	5 人 ((1.7%)
教職員	女性	61 人	0 人 (0.0%)	0 人 (0%.0)
	男性	87 人	0 (0.0%)	3 (3.4%)
合 計	女性	472 人	13 人 (2.8%)	36 人 (7.6%)
	男性	386 人	5 人 (1.3%)	8 人 ((2.0%)

2. 学生からのセクシュアリティに関する嘲笑的言動や差別的言動について

セクシュアリティに関する嘲笑的言動が、日常的にある。

当事者と非当事者では、嘲笑的言動や差別的言動への気づきに違いがある。

「話のネタ」として使われることも多い。無意識・無理解の言動が相手を傷つけている。

「当事者」(p3 特記事項*参照)

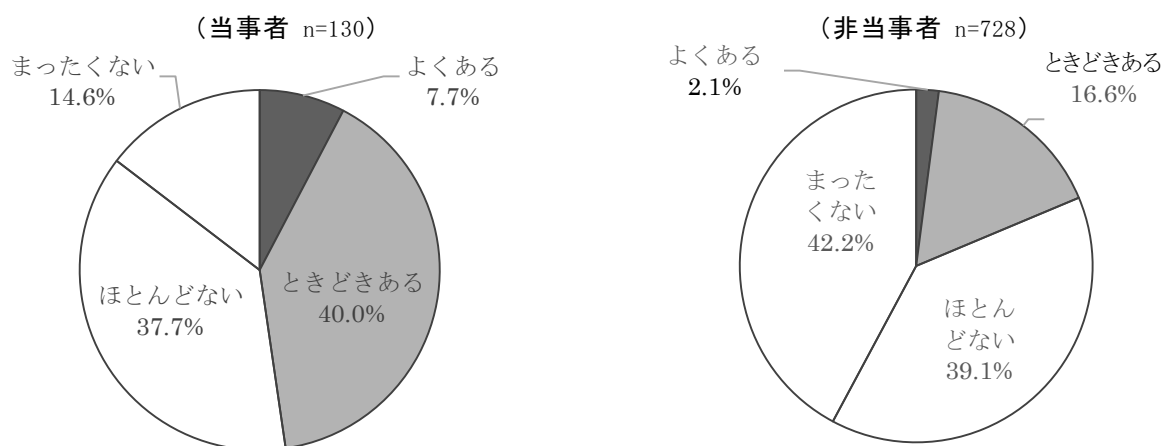
学生からのセクシュアリティに関する嘲笑的言動や差別的言動を受けたことや見聞きしたことがある人の割合は、当事者と非当事者で違いが見られました(グラフ1)。学生から嘲笑的言動や差別的言動を受けたことや見聞きしたことが「よくある」「ときどきある」と回答した人は、当事者では130人中62人と47.7%にのびりましたが、非当事者では728人中136人で18.7%にとどまり、逆に「まったくない」と答えた人が307人で42.2%でした。

この結果から、当事者はこの問題に敏感で嘲笑的言動や差別的言動に気づきやすいが、非当事者は嘲笑的言動や差別的言動を聞いていても気づかない、または差別的と考えていない、あるいは気づいていても無関心であるということが考えられます。

具体的な状況やそのときの気持ちについて聞いたところ、自由回答のコメントから、「会話のネタ」として日常的に嘲笑的言動や差別的言動がおこなわれている実態が浮かび上がりました。また、「異性愛者を“普通”と呼ぶことに違和感を覚える」といった声や「ある学生が『私は同性愛者だと間違われたくない』と言ったとき、その言い方には同性愛者への嫌悪があると感じた」という回答があり、自己中心的な意識や、無知、無関心によって嘲笑的・差別的と気づかずに発言していることがわかります。そのような会話を聞いて「すごく悲しいし、やっぱり自分は居てはいけないんだ」という違和感を持ったとするコメントや自己否定を感じたとするコメント、「カミングアウトしようとは思わなくなりました。個人的なことは話さないでいます。」とするコメントなど、友人と素直につきあえないことを訴える声も複数ありました。

さらに、「その場のノリで一緒になって笑ってしまった。良くはないと思いつつ曖昧に流してしまう。」など、モヤモヤした気持ちを持ちながら、その場を取り繕わざるをえない状況も見受けられます。

(グラフ1)学生からのセクシュアリティに関する嘲笑的言動や差別的言動を受けたことや見聞きしたことはありますか。



3. 教職員からのセクシュアリティに関する嘲笑的言動や差別的言動について

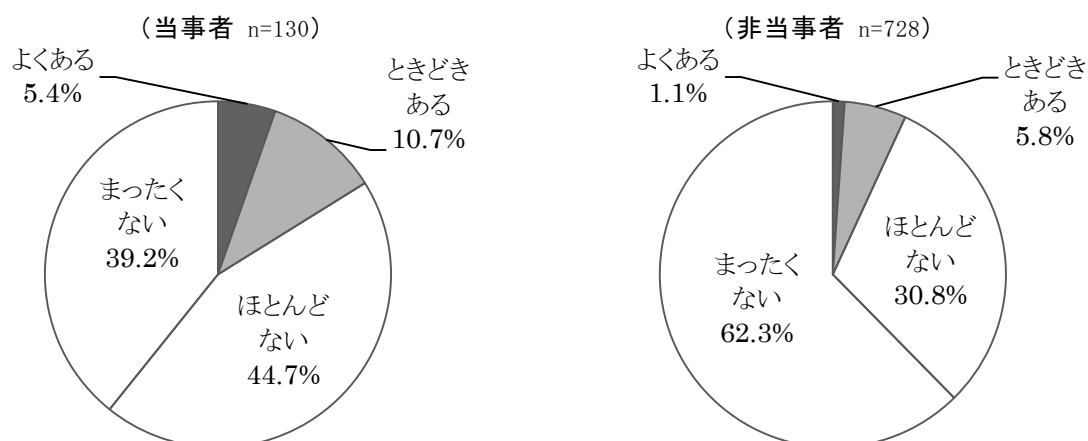
固定的なジェンダー観による言動や、誤った知識による言動がある。
当事者と非当事者では、嘲笑的言動や差別的言動への気づきに違いがある。
教職員の言動は学生への影響力が大きく、教職員の理解が重要。

「当事者」(p3 特記事項*参照)

残念ながらセクシュアリティに関する嘲笑的言動や差別的言動が、教職員から発せられていることがわかりました。教職員からのセクシュアリティに関する嘲笑的言動や差別的言動を受けことや見聞きしたことがある人の割合は、当事者と非当事者で違いが見られます(グラフ 2)。教職員から嘲笑的言動や差別的言動を受けたことや見聞きしたことが「よくある」「ときどきある」と回答した人は、当事者では 130 人中 21 人で 16.1%であるのに対し、非当事者では 728 人中 136 人で 6.9%でした。この差は、他者が、無自覚、無意識のうちに発する言葉が、当事者を深刻に傷つけていることを示しています。

具体的なコメントで目立ったのは、「男は男らしく、女は女らしく」や「女性は結婚して子どもを産むもの」といった固定観念にもとづく発言です。これらはジェンダー(社会的な性差)の意味合いが強くセクシュアリティとは少し視点が異なるかもしれませんが、多様な生き方や性のあり方への配慮に欠ける発言であることは共通しています。また、授業中に、教員が「同性愛は病院に行けば治る」や、トランスジェンダーに対して「性癖が歪んでいる」という誤った発言、「ホモは気持ち悪い」「ホモは無理」などの発言があったとするコメントがありました。授業中などでの教職員の嘲笑的言動は重大な人権侵害であり、授業を受けている当事者学生を深く傷つけ、学修を阻害し、状況によってはセクシュアルハラスメントになります。教える、指導するという立場にある教職員が、嘲笑的な言動をするというのは決して許されることではなく、大きく改善する必要があります。このような発言に対し、「このような場に遭遇した時は、『笑わない』、『発言に同調しない』、『困った顔をする』ようにしている」という教職員のコメントもありました。当事者を嘲笑する言動や差別する言動を見聞きした場合、同調しない態度を明確に示し、その場でセクシュアリティへの理解を促すことが重要だといえます。

(グラフ 2) 教職員からのセクシュアリティに関する嘲笑的言動や差別的言動を受けことや見聞きしたことがありますか。



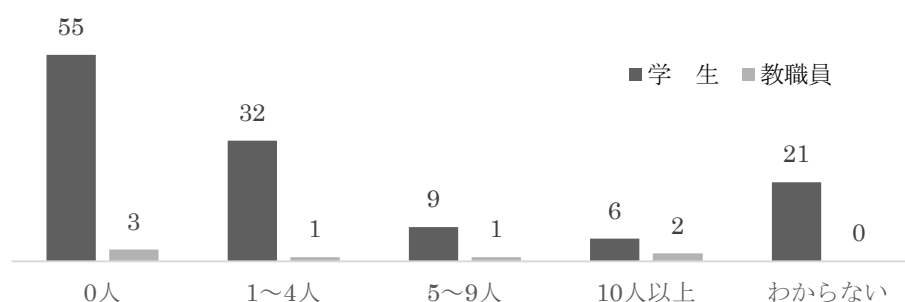
4. 龍谷大学内でのカミングアウトの状況

誰にもカミングアウトしていない人が多い。
 龍谷大学には、カミングアウトに慎重にならざるを得ない状況がある。
 誰にとっても安全で安心できるキャンパスであるとは言えない。

注：カミングアウトの状況を聞く設問の意味が「わかりにくい」との指摘が回答者からあり、セクシュアリティ以外の告白も含めて広い意味でカミングアウトと捉えた人などがいた可能性があります。このため、この設問の結果は、「当事者」（p3 特記事項*参照）のみを抽出して集計しています。

龍谷大学が誰にとっても安全で、自分のセクシュアリティを安心してカミングアウトできる環境にあるかどうかを知ることを意図した設問です。カミングアウトとは、自分のセクシュアリティを告白することを指します。必ずしなければならないことはなく、必要性を感じていない人もいます。しかし、カミングアウトの状況を知れば、誰もが自分らしく過ごせる環境になっているかどうかを知る手がかりになるのではないかと考えました（グラフ 3）（表 2）。誰にもカミングアウトしていないという人が 130 人中 58 人で 44.6% した。「むやみにカミングアウトするつもりはない」と答えている人がいるように、カミングアウトしないことを肯定的に感じていない人や、カミングアウト自体を否定している人もいると思われますが、集計の結果から、カミングアウトしたくてもできない人が一定数存在することが考えられます。自由記述のコメントにも「カミングアウトできないと思った」などの記載があり、それを裏付ける結果となっています。ただし、カミングアウトしやすい環境を整えば良いということではありません。「本来ならば、誰もカムアウトしなくてもよい社会であるべき」というコメントがそれを言い表しています。「男性であること」や「女性であること」をカミングアウトする必要がないのと同様に、カミングアウトという言葉が必要ない環境こそが、誰もがありのままの自分に誇りを持って過ごすことができる大学であるといえます。現状では、一部の人が積極的にカミングアウトしている一方で、多くの人はカミングアウトに慎重にならざるを得ない状況にあると言えます。

（グラフ 3）（単位：人）



（表 2）当事者が、龍谷大学内でカミングアウトした人数 (n=130)

	だれにもカミングアウトしていない	1人～4人	5人～9人	10人以上	わからない
学 生	55人(44.7%)	32人(26.0%)	9人(7.3%)	6人(4.9%)	21人(17.1%)
教職員	3人(42.8%)	1人(14.3%)	1人(14.3%)	2人(28.6%)	0人(0%)
合 計	58人(44.6%)	33人(25.4%)	10人(7.7%)	8人(6.2%)	21人(16.1%)

5. 大学で困っていること、改善してほしいこと、期待することについて

セクシュアルマイノリティ・フレンドリーな大学としての姿勢を明確にすること。
授業、講演会、ガイダンスなど、理解を深めるための取り組みを進めること。
気軽に話せるコミュニティづくりや相談窓口を明らかにすること。
性別に関係なく、誰でも使えるトイレを設置し、その場所を明確にすること。

この質問には、合計 87 件のコメントをいただきました。どれも大変貴重な意見で、これからの施策の参考になるものです。また、本アンケートに関する厳しい意見も頂戴しました。なお、アンケートの趣旨とは直接関係のないご意見も多数ありましたが、これについては、担当する部署などに連絡して対応を検討いたします。多数のコメントの中から、特に多かった意見や具体的な提案などを記載します。

●セクシュアルマイノリティ・フレンドリーな大学としての姿勢を明確にすること

「LGBT フレンドリーであることを明確に打ち出すことで、大学としての姿勢を明らかにする」という提案がありました。龍谷大学では、「人権に関する基本方針」の中で、セクシュアリティによって差別しないことを明確に定めていますが、より積極的に推進していくためには、一部の大学や企業において発表されているような「ダイバーシティ宣言」などを策定し、「大学の姿勢を示すべき」という提案です。大学の基本姿勢や方針を示すことは、学生や教職員、あるいは龍谷大学を目指す受験生に安心感をもたらすことが期待できると考えられます。「大学トップや大学職員に理解がないと、学生もそれを薄々感じ、差別発言をしやすい」、「大学の取り組みは遅いと感じる」との意見もあり、姿勢を示すだけでなく、強い指導力と実行力を求める声もありました。

●授業、講演会、ガイダンスなど、理解を深めるための取り組みを進めること。

セクシュアリティに関する講演会の開催や授業に期待する声が多数ありました。「セクシュアリティについてもっと知りたい」、「性の多様性を知ってほしい」、「生きづらさを感じている人がいることを知ってほしい」というのがその理由です。コメントの中には「どのような言動が当てはまるのかわからない」、「友人のなかに性的少数者だと私に打ち明けてくれた人はいません。嘲笑や差別的言動も何が問題となるのかわからず、もしかしたら無意識のうちにそれらにあてはまる言動を私は発しているかもしれません」と言ったものもあり、理解を深めるための取り組みが必要です。人権講演会や学生主催の講演会などが不定期に開催されていますが、これらは自由参加となっていることから、どうしても参加者が限られてしまいます。このため新入生オリエンテーションやガイダンスなどのように、より多くの人が参加できる機会を求める声もありました。

●気軽に話せるコミュニティづくりや相談窓口を明らかにすること。

学生の相談先としては、学生部に設置された「なんでも相談室」がありますが、セミオープンのカウンターのため、相談しづらいというコメントがあります（なんでも相談室では、申し出ただけであれば、個室に移動して相談を受けることも可能です）。また、相談とまでいわないまでも、「話を聞いてほしい」というニーズがあり、情報交換や“おしゃべり”ができるコミュニティを望む声

があります。学生の自主的活動グループとして、LGBTs 交流サークル「にじりゅう」があるものの、これにすら参加できない人もいるという指摘があることに加え、自らのセクシュアリティを迷っている学生が多いことから、互いに共感し合える居場所づくりや、機会の提供などが期待されています。

●性別に関係なく、誰でも使えるトイレを設置し、その場所を明確にすること

性別に関係なく誰もが使える、いわゆる「ジェンダーフリートイレ」を設置してほしいという意見が多数ありました。ジェンダーフリートイレは、おもに「出生時の性と自認する性が同じでない人」が気兼ねなく利用できるよう、「だれでもトイレ」、「みんなのトイレ」などの名称で公共の場での設置が広がっています。龍谷大学では、多くの身体障がい者用トイレや多目的トイレを、男女トイレとは別に設置しています。現在、建築中の大宮学舎東翼でも、設計時から「ジェンダーフリー」を意識したトイレの設置が検討されています。これらのトイレの表示や配置マップを作成することで、気軽に利用できるようになる可能性が考えられます。

これに関連し、「キャンパス内に掲示されている注意ポスターに「女性トイレに男性不審者」と書かれているが、見た目から不審者と判断したと受け止められかねず不適切ではないか」と指摘する意見がありました。男性用トイレを使うか、女性用トイレを使うか、ジェンダーフリートイレを使うかということは、本人が決めることであって、他人が外見で判断することではないという意見があることを理解しておく必要があります。

●その他の具体的な要望や提案

トランスジェンダーなどの人への配慮として、「さまざまな提出書類の性別欄をなくす」、「学籍簿や学生証の性別を戸籍上の性ではなく本人が希望する性別で登録することができるようにする」、「健康診断を個室で受けられるようにする」、「新入生のフレッシュャーズキャンプやゼミ旅行などの宿泊室を配慮する」、「授業や課外活動での更衣室を個室にする」、「セクシュアルマイノリティに理解がある企業に就職できるよう支援を強化する」、「これらの配慮をホームページに掲載する」、などの意見がありました。

また、ハラスメントに関する記載も多く、「ハラスメント防止規程に LGBTQ や障がい者への差別禁止を盛り込む」とする提案などがありました。

6. まとめ

誰にとっても居心地が良い安心できる場所であるため、教育機関として安全配慮が必要。
セクシュアリティについての理解浸透と、環境や制度の改善・整備が急務。

龍谷大学における、セクシュアルマイノリティの現状として「だれにとっても安全で安心できるキャンパスであるとは言えず、生きづらさを抱えている人がいる」ということが明らかになりました。そして、その生きづらさは、多くの場合「他者が無意識や無自覚のうちに発する言葉や振る舞い」によって引き起こされています。会話を盛り上げるための気遣い、周囲の和を乱さないという協調、あるいは親しさの表現の形として、しばしば、差別的なことが言われてしまうことが、自由回答のアンケートからわかります。人間関係や社会性を維持しようとするに付随して、こういった差別が生まれてしまうということを、マジョリティを含めすべての人が自覚しなくてはいけないということを多くの自由回答が語っています。

龍谷大学における、セクシュアルマイノリティのニーズは多様で多岐にわたりますが、もっとも多かったのは「多様な性のあり方を理解し、生きづらさを抱えている人がいることを知ってほしい」ということでした。「大学で困っていること、改善してほしいこと、期待すること」についてのコメントには、講演会や研修会、ガイダンスの実施など、理解浸透のための取り組みに期待する声が非常に多く寄せられました。セクシュアルマイノリティだけでなく、多様性を認めあう文化の創造を目指すことが重要であると言えます。そのほかにもトイレや更衣室の整備、性別標記の見直しなど、さまざまな課題が表出し、理解することだけでなく、環境や制度の改善・整備についても多くの要望があります。

その一方で、アンケートに回答できなかった人についても考えておく必要があります。たとえば、アンケート回答者のセクシュアルマイノリティ当事者の率が、学生で 17.3%であったのに対し、教職員で 4.7%であったことは、インターネットによるアンケートであることを差し引いても、注視しておく必要があると思われます。仮に、セクシュアルマイノリティの当事者がアンケートに回答しにくい要因が職場にあるのであれば、多様性を認めあえる環境に改めなければなりません。

龍谷大学は、人権に関する基本方針の中で「龍谷大学のすべての構成員は、人権侵害が意図的な行為だけでなく無知や無関心、想像力の欠如によって生じることを常に意識するよう努めます。そして、自ら差別に加担し他者を傷つけている可能性があることの自覚をもち、人権問題に真摯に取り組む姿勢を持つとともに、一人ひとりの多様性と価値を尊重し、偏見や固定観念、差別意識の克服に向けて、主体的に取り組めます。」と明記しています。この基本方針にしたがい、多様性を認め合うキャンパスと社会の創造を目指して取り組むことが急務であると結論づけることができます。

IV 資料編

設問1 あなたの龍谷大学での属性はなんですか。

設問2 あなたが出生時に戸籍や出生届に記載された性別は何ですか。

設問3 あなたが現在自認している性別は何ですか（性自認）

設問4 あなたが好きになる相手の性は何ですか。（性的指向）

（表1）回答者の状況【全体】

設問1～4の回答者をもとに分類した人数の一覧（全回答者）

（単位：人）

出生時の性	性自認	性的指向	
女性 452人	女性	女性	13
		男性	319
		性別を問わない・両性	63
		特定の人を好きにならない	24
		その他	2
		わからない	31
	男性	女性	1
		男性	0
		性別を問わない・両性	0
		特定の人を好きにならない	0
		その他	1
		わからない	0
	Xジェンダー	女性	0
		男性	0
		性別を問わない・両性	2
		特定の人を好きにならない	0
		その他	0
女性 472人	その他	女性	0
		男性	0
		性別を問わない・両性	0
		特定の人を好きにならない	0
		その他	1
		わからない	0
	わからない	女性	1
		男性	1
		性別を問わない・両性	6
		特定の人を好きにならない	2
		その他	0
		わからない	3

出生時の性	性自認	性的指向	
男性 386人	女性	女性	3
		男性	4
		性別を問わない・両性	0
		特定の人を好きにならない	1
		その他	0
		わからない	1
	男性	女性	319
		男性	18
		性別を問わない・両性	16
		特定の人を好きにならない	8
		その他	1
		わからない	6
	Xジェンダー	女性	1
		男性	0
		性別を問わない・両性	1
		特定の人を好きにならない	1
		その他	0
男性 386人	その他	女性	0
		男性	0
		性別を問わない・両性	0
		特定の人を好きにならない	1
		その他	0
		わからない	0
	わからない	女性	0
		男性	0
		性別を問わない・両性	4
		特定の人を好きにならない	0
		その他	0
		わからない	1

(表 2) 回答者の状況【学生】

設問 1～4 の回答者をもとに分類した人数の一覧 (学生回答者)

(単位:人)

出生時の性	性自認	性的指向	
女性 411 人	女性 391 人	女性	11
		男性	261
		性別を問わない・両性	62
		特定の人を好きにならない	24
		その他	2
		わからない	31
	男性 2 人	女性	1
		男性	0
		性別を問わない・両性	0
		特定の人を好きにならない	0
		その他	1
		わからない	0
	Xジェンダー 4 人	女性	0
		男性	0
		性別を問わない・両性	2
		特定の人を好きにならない	0
		その他	0
		わからない	2
	その他 1 人	女性	0
		男性	0
		性別を問わない・両性	0
		特定の人を好きにならない	0
		その他	1
		わからない	0
	わからない 13 人	女性	1
		男性	1
		性別を問わない・両性	6
		特定の人を好きにならない	2
		その他	0
		わからない	3

出生時の性	性自認	性的指向	
男性 299 人	女性 6 人	女性	3
		男性	2
		性別を問わない・両性	0
		特定の人を好きにならない	1
		その他	0
		わからない	0
	男性 285 人	女性	242
		男性	15
		性別を問わない・両性	15
		特定の人を好きにならない	8
		その他	1
		わからない	4
	Xジェンダー 3 人	女性	1
		男性	0
		性別を問わない・両性	1
		特定の人を好きにならない	1
		その他	0
		わからない	0
	その他 0 人	女性	0
		男性	0
		性別を問わない・両性	0
		特定の人を好きにならない	0
		その他	0
		わからない	0
	わからない 5 人	女性	0
		男性	0
		性別を問わない・両性	4
		特定の人を好きにならない	0
		その他	0
		わからない	1

(表 3) 回答者の状況【教職員】

設問 1～4 の回答者をもとに分類した人数の一覧 (教職員回答者)

(単位:人)

出生時の性	性自認	性的指向	
女性 61 人	女性 61 人	女性	2
		男性	58
		性別を問わない・両性	1
		特定の人を好きにならない	0
		その他	0
		わからない	0
	男性 0 人	女性	0
		男性	0
		性別を問わない・両性	0
		特定の人を好きにならない	0
		その他	0
		わからない	0
	Xジェンダー 0 人	女性	0
		男性	0
		性別を問わない・両性	0
		特定の人を好きにならない	0
		その他	0
		わからない	0
	その他 0 人	女性	0
		男性	0
		性別を問わない・両性	0
		特定の人を好きにならない	0
		その他	0
		わからない	0
	わからない 0 人	女性	0
		男性	0
		性別を問わない・両性	0
		特定の人を好きにならない	0
		その他	0
		わからない	0

出生時の性	性自認	性的指向	
男性 87 人	女性 3 人	女性	0
		男性	2
		性別を問わない・両性	0
		特定の人を好きにならない	0
		その他	0
		わからない	1
	男性 83 人	女性	77
		男性	3
		性別を問わない・両性	1
		特定の人を好きにならない	0
		その他	0
		わからない	2
	Xジェンダー 0 人	女性	0
		男性	0
		性別を問わない・両性	0
		特定の人を好きにならない	0
		その他	0
		わからない	0
	その他 1 人	女性	0
		男性	0
		性別を問わない・両性	0
		特定の人を好きにならない	1
		その他	0
		わからない	0
	わからない 0 人	女性	0
		男性	0
		性別を問わない・両性	0
		特定の人を好きにならない	0
		その他	0
		わからない	0

設問 5

学生からのセクシュアリティに関する嘲笑的言動や差別的言動を受けたことや見聞きしたことはありますか。

（表 4）学生からのセクシュアリティに関する嘲笑的言動や差別的言動を受けたことや見聞きした人数

		よくある	ときどきある	ほとんどない	まったくない	合計
学 生	当 事 者	9 人 (7.3%)	50 人 (40.7%)	47 人 (38.2%)	17 人 (13.8%)	123 人 (100%)
	非当事者	15 人 (2.6%)	108 人 (18.4%)	232 人 (39.5%)	232 人 (39.5%)	587 人 (100%)
	合計(人)	24 人 (3.4%)	158 人 (22.2%)	279 人 (39.3%)	249 人 (35.1%)	710 人 (100%)
教職員	当 事 者	1 人 (14.2%)	2 人 (28.6%)	2 人 (28.6%)	2 人 (28.6%)	7 人 (100%)
	非当事者	0 人 (0%)	13 人 (9.2%)	53 人 (37.6%)	75 人 (53.2%)	141 人 (100%)
	合計(人)	1 人 (0.7%)	15 人 (10.2%)	55 人 (37.1%)	77 人 (52.0%)	148 人 (100%)
学生・ 教職員 合 計	当 事 者	10 人 (7.7%)	52 人 (40.0%)	49 人 (37.7%)	19 人 (14.6%)	130 人 (100%)
	非当事者	15 人 (2.0%)	121 人 (16.6%)	285 人 (39.2%)	307 人 (42.2%)	728 人 (100%)
	合計(人)	25 人 (2.9%)	173 人 (20.2%)	334 人 (38.9%)	326 人 (38.0%)	858 人 (100%)

「当事者」(p3 特記事項*参照)

設問 6

設問 5 で、「よくある」「ときどきある」と答えた方は、差し支えなければ具体的な状況やそのときの気持ちについて記入してください。(自由記述)

（表 5） 設問 6（自由記述）の回答者数

	当事者	非当事者	合計
学 生	32 人/123 人 (26.0%)	58 人/587 人 (9.9%)	90 人/710 人 (12.7%)
教職員	0 人/7 (0%)	10 人/141 人 (7.1%)	10 人/148 人 (6.8%)
合 計	32 人/130 人 (24.6%)	68 人/728 人 (9.3%)	100 人/858 人 (11.7%)

「当事者」(p3 特記事項*参照)

主な自由記述【学生：当事者】

- レズビアンに対してゲイの人に対する距離の置き方が著しい。
- 普段の会話のなかで、下ネタとか言っていたら、そういう話題が出たりします。
- 知らないとはいえ、友達に自分のことを笑われて良い気分ではないです。すごく悲しいし、やっぱり自分はいちやいけないなだなどと思ってしまう。
- 男子学生同士が、ネタとして「お前ホモかよ～」などと嘲笑していた。私はやはりそういうネタのような扱いをされてしまうのかとおもいました。
- 部内のイケメン好き女子がよくホモホモ言ってからかうのだけれど、そういうネタでも傷つく人がいるんだよね。
- 「あいつホモやろー、キモッ」という茶化した発言があったとき、その場のノリで一緒になって笑ってしまった。よくはないと思いつつ曖昧に流してしまう。
- （嘲笑的言動や差別的言動をした）その人とは今後も分かり合えないだろうと思いましたし、それでネタにされるのは嫌なのでそのグループにカミングアウトしようとは思わなくなりました。また、それ以降そのグループに対し、どれが差別的な嘲笑としてとらえられるかわからないので、個人的なことは話さないでいます。
- ゲイなのかレズビアンなのかなど冗談交じりに話している様子を見かけます。また異性愛者のことを“普通”と呼ぶことに対しても違和感があります。
- ホモと言ってバカにするのを聞くことがある。
- ただ人が人を好きになっているだけなのに、同性であるというだけで何を気持ち悪く思うんだろうか。
- 基本的に嫌な気持ちになるが、いじり方・揶揄の仕方が面白いと許してしまう。
- 虹色を見て、ゲイの印だからキモイと言っているところに遭遇した。言葉だけが知れ渡っていると感じた。
- 面白半分でネタにする人は多いが、自分もその時は合わせるしかない。理解している人が多いように思うけど、セクシュアルマイノリティが身近にいるかも、っていう意識はあまりないのかも。
- 友人と LGBT の話が話題になったときに「キモイ」や「汚い」という言葉を聞いた。自分はストレート寄りのバイ（セクシュアル）なのでそこまでひどい程度ではなかったが、傷ついた。同時に、カムアウトを恐れた。しないでよかったと思った。
- 私は中学生の時に好きな人に告白したときに「ゲイとか絶対無理！ だって人間の生きる意味に反してるじゃん！」と言われました。そのひとは他の人には言いふらさなかったみたいですが、その言葉に大変傷つき、以後はほとんど誰にもカミングアウトできないし、告白もできなくなりました。もともと他人に自分のことを包み隠さず知ってほしい！という思考を持っているので、その思考と、また拒否されるのではないかと、という怖さとの葛藤で大変悩んでいます。
- 仕方ないかもしれませんが、正しい知識を持っていないようであれば、「それは少し違うよ」と言いたくなる時もあります。
- セクシュアリティをネタにして会話をしている学生を見かける。
- LGBT の話になった時に「気持ち悪い」と言われたことがある。
- ヘテロセクシュアル（異性愛者）との壁を感じる。
- 私は大学の友人にカミングアウトしていません。だから、わざとではないとわかっているのですが、スキンシップをしている男の人たちを見て、友人が「ああゆうのは無いわぁ」とバカにして

笑いながら私に同意を求めてきたりすることがありました。そう言われるたびに、この人にはカミングアウトできない、と思ってしまいます。ツッコミやノリで、「お前らホモかよ」「そっち系(同性愛者)じゃないから！やめて！！」などの発言も、当事者としてはドキッとしてしまいます。

- 「ゲイなん？やめとけ、病気になるぞ」「お前ら仲良いな、ホモかよ（笑）」「キモい」などと言われたことがある。
- テレビで LGBT についてやっていた時に父親が気持ち悪いと言っていて悲しくなった。
- ある学生が男子校出身者に「やっぱりホモっているん？ 男に何かされた？」といったことを冗談ながらも聞いていたことがあり、気持ちは複雑であった。
- 教職課程をとっている知人と「LGBT の教え子がいたら？」という話になったときに、「病院に連れていく」と言っていたのが衝撃的だった。教育者を志す人がその程度の知識しかないことに驚いた。
- 父がそういうものに批判的で、「頭がおかしい」とよく言っていました。私は家族や周りの人間に隠していますが、幼い頃からの父の発言により絶対他人に言わないでおこうと心に決めています。
- ある文章について、何人かの学生が”ホモだ”と笑っていたが、どのように対応すればいいかわからなかった。
- セクシュアリティについて人に明かすことが怖いと感じた。
- 私が同性愛者だとカミングアウトした時に「それって病気ってことやろ？」と言われ、同性愛や両性愛が病気だという認識の人が未だにいるんだなとショックを受けました。
- ある学生が「私は同性愛者だと間違われたくない」と言ったとき、その言い方には同性愛への嫌悪があると感じた。
- 「ホモ」などと言っているのを聞くと、モヤモヤとした気持ちになる。
- 気分は良くないが仕方が無いかという諦めの気持ちもある。認めて欲しい訳では無いし理解しろとも言わないが放っておいてくれと思う。

主な自由記述【学生：非当事者】

- あるバイセクシュアルの知り合いについて話しているときに、バイは全員が恋愛対象だから気持ち悪いと言っている友達がいた。
- “ホモ”という言葉や、差別用語と知らずに使っている人が多い。“レズ”も同様。
- 手をつないでいる同性同士を見るとキモいという人を割と見る。私個人としてはその人たちの言動は理解できないが愛し合うことはいいと思う。
- ジェンダー関係の講義で、ある架空の人物の性別を問われたとき、性の対象を聞かれたわけでもないのに笑いながら「バイセクシュアルだと思います」と言った言動がふざけている様にしか感じられず、不快でした。
- 日常的に「ホモ・レズ」という言葉は聞きます。蔑称であるという知識が広まればいいなとも思います。
- 女だから～～～とか、男だから～～～とか。そういう発言はよく聞きます。
- 自分は何とも思わない方だけど、他の人を傷つけていたら嫌だなと感じることはあります。
- ふざけあって（嘲笑的言動や差別的言動を）喋っている学生を食堂や授業中に見聞きする。討論なら良いが、悪ふざけで話をしているのであまりいい気分ではない。

- 漫画の話になった時に、BL（男同士）って気持ち悪いよね、と言っていた人がいた。
- 可愛い女の子の話をしていたら「レズ」と言われ傷ついた。
- これまで、セクシュアルマイノリティは重点的な分野ととらわれなかったこともあり、そのような嘲笑的なことはあったかと思います。
- 不愉快に感じた。
- 伏見稲荷大社で外国人観光客のゲイカップルに対して笑っている人がいて、気分が悪くなった。
- 「女なのに～」とか、「男なのに～」とか。「関係ないやん」と思いました。
- 嘲笑的な意味でホモという言葉聞くことがある。
- 飲み会の席で、「お前、ゲイか！」と突っ込み、笑うということがあった。お酒の席でのことなのでそこまで気にしてはいなかったが、後々考えると気持ちのよいものではなかった。
- 男だから〇〇、女だから〇〇といった決めつけた発言。
- どのような言動が当てはまるのかわからない。
- 「お前、おかまか」のような発言を耳にしたことがある。
- 外で女性二人が手をつないで歩いているのを見た二人組が、キモいと言っているのを聞いたことがある。自分は人を好きになる、相手を大切に思う気持ちが大切だと思うから、そういう人がいてもいいと思う。
- 冗談で、男子学生に対して「ホモ」と言われているのを目撃した。日本はまだまだこのような文化において情報が少ないと感じます。
- その人に対して失礼だと思う。嫌な気持ちになる。
- 男だから、なよなよするなと言われている男子生徒を見た。「男だから」と言うのは古臭いと思う。
- バイト先でレズビアンの人が、陰で気持ち悪いと悪口を言われていた。
- 友人と会話をしている際に、そのような発言を聞いた。あまり良い気分ではなかったが日本ではまだこんなものかと思った。
- ゲイやレズであることが、笑いの対象とされていることがある。
- 例えば、すごく仲の良い男性同士に向かって、「お前らゲイか」と言ってみんなで笑う（言われている方も笑う）など。
- 「やっぱりそういうのはないよね」などと言っているのを聞いたことがあります。
- 私は、特にバイセクシャルの方について良くないという意見を持っているので、私自身がそういう発言をよくします。
- 友達や父が「気持ち悪いよね」と話していた。
- 同性を恋愛対象と見るのは理解が出来ないし、理解したいとも思わない。
- 恋愛は男女間で成立するものだという前提が染み付いている人だと、会話の節々からそういった言動が見受けられる。悪意がないというのも分かるので、不快に思うこともない。
- 仲の良い友達同士を見て「お前らはホモか」などふざけて言っていた場面がある。
- 「お前ホモやろ～」という冗談はよく聞く。ゲイの人が聞いたら嫌なんじゃないかといつも思うが、自分はただ傍観してしまう。
- 異性愛者同士で「うわ～ホモや！」というように、同性愛者というのを罵り言葉として捉えられていたので、別にホモ・セクシャルがいてもいいじゃないか、と思った。
- ホモやゲイといったいじり方をよく目にする。
- 中学生の頃に男性の友人とじゃれあっていたら「おかま」、「ホモ」、「ゲイ」と侮蔑された。辛く

なって、その人と一緒に居づらくなった。当時、女性の中学生同士が気持ちを分かち合うために抱き合ったり、手をつないだりしているのに対して、男性が同じような行動をとると上記のような言葉を男性、女性から言われる風潮があり、男性だけそのように言われるのはとてもおかしく、世の中は不条理だなあと感じていました。

- トランスジェンダーは性同一性障害として認知度が高いから悪く言っている人は見たことはない。だけどレズ、ゲイ、バイを気持ち悪いと言っている人はごく稀に大学で見かける。私が今まで見聞きしたのはすべて男性。一般教養の授業とかで LGBT についてやったほうがいいと思う。
- 長年恋人がいない男性に対して「ゲイなんじゃないの」と冗談に交えてからかうような場面は日常でよくみられる。もし本当に本人が当事者ならば、言い出せないし辛いと思う。
- 同性愛者が悪であるかのような発言と自由な人付き合いへの理解がない言動がある。
- 友人達と恋愛についての話をしている時に、「女は全員こうだから信用できない。」などといったような偏見に満ちた発言があった。
- ゲイとか言われている人を見たことがある。
- 「ホモは現実におったら気持ち悪い」などという発言を聞いて嫌悪感を抱いた。
- いろいろな人がいるのだなあ、という感じ。
- ゲイに関する笑いのネタにするような発言があった。
- 嘲笑的な発言や差別的な発言を聞いたときは、一緒になってネタにはしないものの、その場の雰囲気に合わせている。それと同時に、もしこの場にそういう人がいたらどうしようかなと思っている。
- 性別は関係ないと思うから差別的言動が理解できないと思った。
- 気分が悪くなる。
- おネエか！と言うつつこみを聞く。
- ある特定の男性の友人と一緒にいることが多いことから、周りの他の友人に「ゲイ」とからかわれるけど、「俺はゲイなんかじゃありません」というような内容のことを授業の自己紹介時に言っている人がいて、大変不快に感じたことがあります。
- ホモなどの差別用語が悪気もなく会話にしている学生が多く、大学生にもなって情けないなという気持ちになるが、それを指摘できない自分自身にも嫌に感じる。

主な自由記述【教職員：当事者】

コメントなし

主な自由記述【教職員：非当事者】

- 女子が「男のくせに・・・」と言っていた。また、その逆も。しょうもねえこと言ってんなあ・・・
- 無自覚に人を傷つける可能性に気づいていないので、出来るだけその場で注意することになっている。ものすごく腹が立つ。
- あまりいい気持ちはしない。
- LGBT といわれる性的少数派の方に対する言葉ではありませんでしたが、男子学生が女子学生に女性を画一化した感性での発言がありました。
- たとえば「男らしい」というよく使われる発言に対して、違和感を感じる。
- 学生同士の会話で、ゲイを「ネタ」にして笑っている場面を見たことがあります。本人たちに悪

意は感じられませんでした、そのことも問題なように感じます。例えば、何かの拍子に男子学生同士の体が触れたとして「やめろよ（笑）」「いや、そんな気はねえよ（笑）」というやりとりも日常的にあるように思いますが、近くで見ている LGBT 当事者にとっては疎外感を感じる場面ではないかと思います。

- 戸籍上は男性だが女性である人が、体育の時、更衣室で周りの男性から体格などについて揶揄されているのを聞いたことがある。しかし、女性の更衣室を使うわけにはいかないし、困っているだろうなと思った。
- 嘲笑ではないが、噂話として「(同性の)〇〇と〇〇が手を繋いで歩いていた」「うわー」みたいなことは時々ある。
- そういう時には違和感を吐露している気持ちには同調しつつ「人にも愛にも色んな形があるからなあ」と穏やかににこやかに言うように心がけている。

設問 7

教職員からのセクシュアリティに関する嘲笑的言動や差別的言動を受けたことや見聞きしたことはありますか

(表 6) 教職員からのセクシュアリティに関する嘲笑的言動や差別的言動を受けたことや見聞きしたことがある人数

		よくある	ときどきある	ほとんどない	まったくない	合計
学生	当 事 者	7 人 (5.7%)	12 人 (9.8%)	55 人 (44.7%)	49 人 (39.8%)	123 人 (100%)
	非当事者	6 人 (1.0%)	35 人 (6.0%)	174 人 (29.6%)	372 人 (63.4%)	587 人 (100%)
	合計(人)	13 人 (1.8%)	47 人 (6.6%)	229 人 (32.3%)	421 人 (59.3%)	710 人 (100%)
教職員	当 事 者	0 人 (0%)	2 人 (28.6%)	3 人 (42.8%)	2 人 (28.6%)	7 人 (100%)
	非当事者	2 人 (1.4%)	7 (5.0%)	50 人 (35.5%)	82 人 (58.1%)	141 人 (100%)
	合計(人)	2 人 (1.3%)	9 人 (6.1%)	53 人 (35.8%)	84 人 (56.8%)	148 人 (100%)
学生・ 教職員 合計	当 事 者	7 人 (5.4%)	14 人 (10.7%)	58 人 (44.7%)	51 人 (39.2%)	130 人 (100%)
	非当事者	8 人 (1.1%)	42 人 (5.8%)	224 人 (30.8)	454 人 (62.3%)	728 人 (100%)
	合計(人)	15 人 (1.7%)	56 人 (6.5%)	282 人 (32.9%)	505 人 (58.9%)	858 人 (100%)

「当事者」(p3 特記事項*参照)

設問 8

設問 7 で、「よくある」「ときどきある」と答えた方は、差し支えなければ具体的な状況やそのときの気持ちについて記入してください。(自由記述)

(表 7) 設問 8 (自由記述) の回答者数

	当事者	非当事者	合計
学生	11 人/123 人 (8.9%)	14 人/587 人 (2.4%)	25 人/710 人 (3.5%)
教職員	2 人/7 人 (28.6%)	8 人/141 人 (6.4%)	10 人/148 人 (6.8%)
合計	13 人/130 人 (10.0%)	22 人/728 人 (3.0%)	35 人/858 人 (4.2%)

「当事者」(p3 特記事項*参照)

主な自由記述【学生：当事者】

- 理解しているふりをして理解をしていないから、からかう。それってどうなんだろうね。
- 男ならこうあるべき、女ならこうあるべきと押し付けるのは高齢の方が多いです。
- 男性だから女性だからという差別的なことは小学生のときからずっと受けてきました。女性は彼氏ができるもの、男性は彼女ができるものという固定概念から、なやまされたこともたくさんあります。
- 講義中に結婚の話など出たとき、「君らもいずれは結婚して家庭を持って…まあ、最近はどうじゃないアヤしい関係の人もあるけど」といった風に、軽くネタにするような言い方で学生たちの笑いを誘うことがありました。
- 授業で取り上げた人物が同性愛者やトランスジェンダーだった時に、そのことについて「ちょっとおかしい人」や「性癖が歪んでいる」などとコメントしている。
- 大学でのことではなく、高校時代の話ですが、保健体育の時間に性病の話になったとき、先生が資料に「同性間の性交渉」とあるのを読み、「男同士なんて考えただけでぞっとするやろ？」と笑っていたのをよく覚えています。その時はまだ、自分がセクシャルマイノリティであるという自覚がなかったのですが、失礼な言い方だと腹が立ちました。
- 男性だから女性だからという強い観念をもった方が多いように見受けられます。複雑な気持ちになります。
- 前時代的な考えをしている教職員がいまだにいる。男女が結婚することがすべてではない。
- 本人は意図して言った事ではないようだが、講義で「同性愛は病院へ行けば治る」と取れるような発言をしていた教員の方がいた。とてもショックだった。
- 教師自身の意見ではなく、こういった事例があるという紹介の中での発言。教師本人の意見ではないことはわかっていたが少し悲しかった。
- キャリアのガイダンスで四季報を配られる際、女性には自動的に「女性版」四季報を渡されたこと。差別的であると思いました。
- つい最近、先生が、ホモは気持ち悪いと仰っていました。私はそういう友人が多数いるので気まづかったです。

主な自由記述【学生：非当事者】

- 教員が男子生徒に怒ったとき、萎縮した男子生徒に対して「めめしいなあ!!女か!!」と言った。女の私もイラッとしたし、男性に対しても失礼だと感じた。
- 「君は女性やから、いつか結婚して、仕事も辞めなあかんやろ」と古い考えを押しつけられることは多い。
- 小学生の時に、先生から君は、「男の子だから」「女の子だから」というような性別を言い方をしていたのかなと思ったことがあった。
- 僕はそういう気持ちにはなりませんが、セクシュアルマイノリティになるのは個人の自由だと思います。
- 授業中に先生が「ホモは無理」といったような発言をした。残念な人だなと思った。尊敬する気持ちが薄れた。
- 言わないだけで、たくさん周りに LGBT の人がいるのにそういったことを知らずに発言しているのだろうなという気持ち。

- ボディタッチが多いなと感じる。度が過ぎると非常に不快。
- 授業中、先生が授業とは関係のない雑談の中で、差別的な言葉があった。
- 就職活動の際、配布される本など当たり前に男女に分けられ区別されていることに違和感を感じました。
- 「女子と男子に分かれましょう」となることがありますが、苦痛に思う人がいるかと思います。
- 「女の子やからねえ」と揶揄されることがあった。
- 人権論の授業で女性の講師が男子生徒を決めつけたような発言を稀にする。

主な自由記述【教職員：当事者】

- キャンパス内でのトイレの不審者の掲示により、トランスジェンダーが追い詰められたりしないか気になる。
- 同僚から、飲み会の席などで、なぜいい歳なのに結婚しないのか、何か理由があるのかという趣旨の発言を繰り返し受けています。また、いい歳をして結婚していないこと、子供がいないことについて、否定的な見解を示す方もおられます。

主な自由記述【教職員：非当事者】

- 男性同士で、女っぽい（これもステレオタイプだが）男性をゲイでは？とからかうような場面をときどき見かける。
- 女性は、言動がどんなに男っぽくてもそのようなからかいの対象になっているのを見たことがないように思うが、女性に対する規範がきついからだろうか。
- セクシャルマイノリティへの理解云々の前に、40代以降の方々はセクハラとも考えていないようなセクハラ言動が多い。特に男性。
- いわゆる「ホモネタ」で、学生に対して笑いを取ろうとする教員がいた。
- 直接問題点を指摘しても通じないと思われるので、このような場に遭遇したときは、「笑わない」「発言に同調しない」「困った顔をする」などの対応をすることになっている。
- 社会性がないなあとつくづく思う。

設問 9

あなたは龍谷大学内で LGBT の当事者以外の人の何人にカミングアウトしていますか。

(表 8) 龍谷大学内で当事者以外の人にカミングアウトした人数

	LGBT 当事者 ではない	だれにもカミング アウトしていない	1 人～4 人	5 人～9 人	10 人以上	わからない
学 生	541	63	35	9	7	55
教職員	128	7	1	1	2	9
合 計	669	70	36	10	9	64

(表 8')

セクシュアリティ以外の告白も含めて広い意味でカミングアウトと捉えた人などがいた可能性があり、誤差をできる限り排除するため、上記 (表 8) から、「当事者」(p3 特記事項参照) のみを抽出して集計した。

	LGBT 当事者 ではない	だれにもカミング アウトしていない	1 人～4 人	5 人～9 人	10 人以上	わからない
学 生	84 人	55 人(44.7%)	32 人(26.0%)	9 人(7.3%)	6 人(4.9%)	21 人(17.1%)
教職員	6 人	3 人(42.8%)	1 人(14.3%)	1 人(14.3%)	2 人(28.6%)	0 人(0%)
合 計	90 人	58 人(44.6%)	33 人(25.4%)	10 人(7.7%)	8 人(6.2%)	21 人(16.1%)

設問 10

大学で困っていること、改善してほしいこと、期待することなどがあれば自由にご記入ください。

(表 9) 設問 10 (自由記述) の回答者数

	当事者	非当事者	合計
学生	38 人/123 人 (30.9%)	23 人/587 人 (3.9%)	61 人/710 人 (8.6%)
教職員	3 人/7 人 (42.9%)	23 人/141 人 (16.3%)	26 人/148 人 (17.6%)
合計	41 人/130 人 (31.6%)	46 人/728 人 (6.3%)	87 人/858 人 (10.1%)

「当事者」(p3 特記事項*参照)

主な自由記述【学生：当事者】

- 龍谷大学は対話と多様性のある大学を目指すと言うが建前での発言に感じる。学生は、ある意味まだ若いので、教育すれば、自分が差別発言をしている事は、自覚しやすい。しかし、大学トップや大学職員に理解がないと、学生もそれを薄々感じ、差別発言をしやすい。大学が、多様性を認めない限り、差別ははびこり続ける。学生を変えようとするのではなく、大学を変えようとする必要がある。具体的には、学内の多目的トイレの場所をホームページに掲載する、様々な提出書類の性別欄を要望があれば記載しないようにする、戸籍がどうであろうと本人が希望する性別で学生登録する、戸籍に関わらず本人が希望する名前に変更できるようにする(苗字は変えない選

択肢もあり)、希望する学生は健康診断を完全個別で行うとホームページに掲載する、性別関わらず着替えが出来る更衣室をつくる、マイノリティに優しい企業を紹介できるよう就活支援を強化する、入学直後のオリエンテーションの宿泊の配慮をする、ジェンダーやセクシュアリティに詳しい専門員を置く、などといった事はどうでしょうか。

- 私自身はむやみにカムするつもりもないので、このままでもいいと思っています。
- こころの相談室を予約しようとしても、いつもいっぱい予約できないです。どうにかありませんか？
- 今年度から LGBT、ジェンダーに関する授業が減ったと聞きました。とても残念です。これに関し当事者や協力してくださる学生、教職員は危機感を覚えています。学校全体としてもう一度見直す必要がありますね。
- 自分とは異なる人間をどうしても受け入れられないという人は必ずいるし、そういう人はせめて心では思っても口にしないよう心がけるべきだ。
- このような差別的な思想は教育により容認できる程度にまで改善できるはずですので、LGBT に限らず差別意識をなくすような教育のカリキュラムを導入していただきたいです。
- 同性愛者だから、その性別全体を性的にみるというばかみたいな考えをまずやめてほしいと思っています。
- 学籍としては男として登録されているから仕方ないことだとは思っているのですが、あまり男であることを強調されるのは何か心に引っかかるものがあります。別に、女性扱いして！という気はさらさらないのですが、何でも性別という尺度で計らないでいただけると助かります。
- 日本では、性的マイノリティに対する正しい認識が、まだ浸透していないと感じる。大学が率先して正しい認識、オープンな対応を大々的にしてほしい。コミュニティを作してほしい。
- 大学内に限らず日本国内において、更に LGBT への理解や受容が求められるべきだと思っています。
- 性別にかかわらず使えるお手洗いがあれば。
- LGBTQ の当事者が不快な思いをせずに使用できるトイレがまったくないと思います。あたかも男か女のどちらかにしか属さない人しかいないような気がするので、セクシュアルマイノリティの人々を配慮したトイレ標識を作成していただきたいです。また、セクシュアルマイノリティへの認知度を高めるために、積極的に講演会などを開いていただくことを期待しております。
- 大宮学舎に多目的トイレを作ってください。
- ジェンダーフリートイレの設置。
- 実際に LGBT に該当する方がいて、学内での生活において困っていることがあるとしても、当事者以外にはわかりにくいので簡単な説明や理解を求める資料などがほしい。
- 女性として魅力的であることを男性にも女性にも求められる。女性であるから、男性が好きであると決めつけられていると感じる。彼氏の有無を女子生徒に異常に気にされる。女子生徒から私が男子生徒と仲よくすることに性的な意味がなくても、そのような状況が気に食わないとして、自分をかわいく見せているなど陰口や悪口を言われる。身に覚えのない悪口やいじめなどを受けることが不快である。また、男性から性的な魅力がないなどと言われる事があるが、男性の性的対象として自分をとらえていないことも多いのでそのようなときは不快である。
- トイレ、健康診断。
- 講演会などをもっと開催してほしい。また龍谷大学生でなくとも参加できるようにしてほしい。
- 何も期待していません。

- 日本社会すべてにいえることであるが、LGBT がストレートと同じように、胸を張って、性的思考の違いを意識することの無いような温かく、差別のない学園環境を作ってほしい。
- 大学で支援してもらうというより、自分自身とマイノリティを受け入れるかどうかの相手の問題だと思うので、大学で困っていることや改善することなどは特にありません。まず、理解を深めることが必要だと思います。
- 日本社会全体で、LGBT に対する理解や受容を更に深めていかなければならないと思います。
- 龍谷大学は私が通っていた小学中学高校よりは LGBT について理解がある人が多いように思います。また、まわりに LGBT の当事者の方もたくさんいます。ただ、私はカミングアウトできません…。龍谷大学は個人的には随分と過ごしやすいです。
- 特にありません。今回、牧村朝子さんの講演会があるということで、とても驚きました。と同時に、非常に嬉しいです。LGBTs に関するイベントがまさか龍谷大学で行われるとは思っていませんでしたので、とても喜ばしいです。今後もこのようなイベントをたまに開催してくれると、当事者にとっては非常にありがたいです。
- LGBTs を政治的な何かに利用しないように、教職員の方々と連携を取っていったらいいと考えています。
- 今、小学校などでは、ようやく LGBT などの研修が行われてきていると、大阪の小学校の先生から聞いています。ですから小学生達は、セクシュアルマイノリティに対する知識があると思いますが、私たち大学生は、一度も正しい知識を学ばず社会に出る人がほとんどだと思います。現に私も、小学校から始まり高校を卒業するまでの 12 年間、LGBT について教育者から学んだのは「男同士なんて考えただけでぞっとするやろ？」という偏見に満ちた言葉のみです。当事者である私たちマイノリティだけでなく、非当事者の方たちの理解があってようやく、私たちは生きやすくなると思います。どうか、キャリアガイダンスのように、全員参加の LGBT の講習をしていただけないでしょうか。理解し、共存していくためにはまず、知ってもらわなければならないと思います。どうかお願いします。私の入った学校が、素敵なおところだと思わせてください。大学の友達の前で、私は恋話さえできません。ごまかしてばかりの生活には疲れ果てました。どうか 1 日も早く実現していただけますと幸いです。よろしくお願いします。
- 性的マイノリティに関する講義や講演を続け、増やしていただきたい。
- 当事者として LGBTQ について理解をしてもらえるのはとてもありがたいと思うが、理解しなくても、されなくても良いから世の中には色んな人がいることだけでも、たくさんの人に知ってもらいたいと思う。自分がカミングアウトをしているのは「世の中って色んな人がいるんだ」って気が付いてもらえたらいいなと思ってしているので。何かあったときにもっと相談のしやすい環境にしてほしい。なんでも相談室は、学生部の隅っこに場所があって、正直外部にも話がもれそうなので相談しなければならないので、もう少し配慮してもらえたらありがたい。(授業中に差別的発言をした) 教員の方はそんな差別的意図や誤ったことを言ったつもりは無かったのかもしれないが、当事者として敏感な話題で熱心に聞いていた自信はある。そんな事を言われると思っていなかっただけに驚いたしショックだったし、とても傷ついた。その件があってから、どの講義に出ても、本当にこの先生が言っている発言は正しいのか常に疑う自分もいるし、不意に傷つけられる(誰かの発言で勝手に傷つくという方が正しいかもしれないが)のが怖くて今でも講義には行けないことが多い。本当に怖いとどうしようもなくなる時がある。大学としての取り組みはすごくスピード感が無いと感じる。もっと積極的に現状を把握、良い方向へ向かうようにしてほしい。

LGBTs 交流サークルのサポートをすることは良いことだと思うが、そこに所属していない当事者もたくさんいるはず。そういったサークルに所属することすら躊躇しているような人だっている。そういった人からも声が届くようにしてほしい。もちろん、当事者以外からも。

- アンケートでの男女欄をなくすか、その他の項目を増やす。
- LGBT について当事者を招いての勉強会を一年に 2、3 回しているので、龍大で教室を貸して欲しい。告知して欲しい。
- どれほどの人がセクシュアリティについて考えているかわかりませんが、そのことに触れる機会を多く持つこと、知る事がまずは大切だと思っているので、もっともっとイベントや講演が増えると良いですね。
- 女同士、男同士が手をつないでいるポスター等があれば、もしかすると少しはそういうのも存在すると分かってもらえるのかな？と思います。
- セクシャルマイノリティだと感じる人たちや興味のある人と話せる場をまた設けてほしいです。(以前も機会があったみたいですが、逃してしまったので・・・)
- LGBT の理解を深めたり、知識を得られるような授業を作してほしい。
- 人権論やジェンダー論の授業で、セクシュアルマイノリティについて今まで以上に取り上げてほしい。
- 健康診断やゼミ研修旅行の際、トランスジェンダーの学生には、脱衣やトイレの使用への配慮をしてはどうでしょうか。
- アンケートの際、性別の項目が「男性」「女性」の二択しかないことに違和感を覚える。
- 特になければ、LGBT 同士交流できる場があれば良いなとはたまに感じます。

主な自由記述【学生：非当事者】

- マイノリティの人が気負いなく生活できるようになることを期待します。男女兼用のできるトイレなど、もう少し大学内に増やしたりするのはどうでしょうか。
- LGBT についての講演会や集会を開いてほしい。
- アカハラ対策を。相談だけでなく、具体的にアクションをかけられる機関を大学に創るべき。
- 誰かから教わることでできる問題かという点と難しいと感じる。自分たちで考える機会を作るような授業をとり入れてほしい。例えば、同性婚の問題にしろ、いろんな意見を扱って、お互いがどういう理由でそう求めているのか、取り上げてほしい。賛成の人、公的な同性婚までは求めない人、反対の人など…。多数派の人（自分も含め）が考えるほど、簡単な問題ではないと感じる。マイノリティの人も、皆それぞれ立場が違う、ことを多数派の人は忘れてしまう。「この問題については、これが正しい」ではなく、世の中にはいろんな考え方や立場や理由があることを教え、そのうえで、どんな趣味嗜好の人にも敬意をもって接することができるように育てるべき、と思う。悲しいけれど、この問題に限らず、世の中完璧な意味での平等はあり得ない（他の人の平等との兼ね合いもある。例えば、トイレもお風呂も着替えも、互いの気持ちがある。少数派の人からすると不自由だろうと感じる。でもそれは、家柄などと同じことに思う。選べないし、差があるのは当たり前だと）。人生に平等なことは、「皆それぞれ平等ではない」ということだけだと思う。生きていくのはとても大変で。悩んでいる側もその周りの人も強くなれないと生きてはいけない。だからこそ、様々な人の立場を考え敬意を持った行動ができるような教育が必要と感じる。
- 私は性的少数者ではありません。男として生まれ男として生き、女性を好きになります。これま

でできた友人のなかに性的少数者だと私に打ち明けてくれた人もいません。セクシュアリティに関する嘲笑や差別的言動の項目がありましたが、わたしには何が問題となるのかわかりません。もしかしたら無意識のうちにそれらにあてはまる言動を私は発しているかもしれません。アンケートへの回答としては不十分かもしれませんが、当事者が傷つくことのない世の中になればとは思っています。

- あらゆる性別に寛容な対応が行われたらいいなと私は願っている。
- 女子トイレが少ない。
- とくに LGBT についてではなく、様々なことについて、多様性を認める重要性を伝えていくべきではないだろうかと思います。
- 自分自身、どうかな～と思いながらも卒論の質問紙の項目に「男性・女性」を設けました。もし自分が性同一性障害なら、不快に思うかもしれません。
- 何か授業でアンケートや調査を行いたいとき、そのあたり配慮すれば良いかも…と思います。
- LGBT に関する講義や講演をこれからも続けてほしい。LGBT に関する話題を多く取り上げて、LGBT という言葉が学生に馴染んでほしいです。
- 多目的トイレを増やしてほしいと思う。
- 教諭からのセクハラまがいの発言はありますが、ゼミ教諭のためあまり無下に断れません。
- 常識とされている事柄をもう一度見直す力を養う教育。
- トイレの不審者出没注意の張り紙は、安直に不審者として認識していいのか疑問があります。
- LGBT の相談窓口ができるのはよいと思う。カミングアウトしたい人やした人にとって過ごしやすいキャンパスになるとよいと思う。また、LGBT 当事者でない学生にも LGBT について（同性が好きというカテゴリーだけではないことなど）もっと知識を与える機会を増やし、どのような学生でも幸せに学べる大学にしていってほしい。
- LGBT フレンドリーであることを明確に打ち出すことで、大学としての姿勢を明らかにし、学生に LGBT について考える機会を与えようと思う。
- 牧村朝子さんの講演会をもう一度開催してほしい。
- 性的少数者 (LGBT) に対する理解が、日本では進んでいない状況です。私は性的少数者ではありませんが、LGBT というだけで、他人から偏見の目で見られ、辛い思いや苦しい思いをされている方が、心休まるような社会となることを切に願います。
- アンケートなど、性別を選択するところに「その他」の項目を付け足してほしい。
- 教員の管理をもう少し徹底してほしい。あまり安心できない。
- 私の周りに LGBT の人がいますが、やはりトイレは苦痛のようです。現実的ではないかもしれませんが、共同トイレを作るなど・・・。
- このようなアンケートがあるのは、当事者の方から実際の声を聞けるのでいいなと思いますが、アンケートの存在を知らない人がとても多いです・・・。
- 男性・女性という区別のないトイレを設置していただきたいです。
- 日本は LGBT に対する意識がないので、大学という場から意識改革されていくことを望む。学生はあまりにも LGBT に対する知識が少ないし、知る機会があってもなかなか自分から参加しないのが課題だと思う。
- 選択肢を複数選択にする必要がある項目がある。「ほとんどない」は、「まったく」ないわけではないので記述の対象者にすべき、または「あったかもしれない」の項目をつけたす。9 の質問の

言い方がややこしいので改善する必要がある。セクシュアルの定義、意味を書くことが必要。

主な自由記述【教職員：当事者】

- LGB に関しては、カミングアウトがなければ、他者からの言動に対する配慮のみで良いので、学内研修等で知識を広げれば良いが、T（トランスジェンダー）に関しては、容姿の問題、トイレ問題、氏名問題、卒業後の証明書の問題等、非常に幅広く問題を抱えているので、ワーキンググループ等で全学的な対応を考えることが重要であり、かつ現在は全くないので喫緊の課題と言えるのではないかと。
- 本来ならば、誰もカムアウトしなくてもよい社会であるべきです。セクシャリティはその人の人格を定義付けている訳ではなく、個性の一部であるとする、わざわざ辛い思いをしてそのような個人的なことのカムアウトを強いるような社会であって欲しくありません。日本のような集団主義的な文化では、他の人々が自分と同じであって当たり前であると考え、風潮が根強く、マイノリティである LGBT の人々は、非常に生き辛く、もどかしく感じていると思います。初対面の人から、配偶者や子供の有無を聞かれたり、普段の雑談においても私生活について詮索されることが多いです。私は海外で学生生活を送ったので、日本における LGBT を取り巻く環境に非常に違和感を覚えています。はっきりとは断言できませんが、配偶者や子供の有無が仕事上の評価や個人の信頼度につながっているのではないかと感じる節もあります。あまりにも詮索されるので、仕方なく同僚にカムアウトしてしまったということもあります。また、カムアウトした後で、そういったことに不慣れな人は、腫れ物を扱うようによそよそしい態度になってしまったということもあります。反対に、カムアウトしたことで同僚との距離が縮まったということもありますが、いずれにせよ、カムアウトしなければ、ずっと私生活が謎に包まれた人、扱い辛い人という評価になってしまいます。日本のマスメディアでは、LGBT はとにかくコミカルなキャラクターとして取り上げられがちです。また、男性の同性愛者は女性的であり、女性の同性愛者は男性的であるといったステレオタイプ的な見方が根強いと思います。しかし、実際には、LGBT の人々はそのように目に付きやすい人々ばかりではないと思います。そして、目に付きにくい分、その存在に気付くにくく、周りに存在しているということに意識が及んでいません。皆の周りには、言えないけれども、LGBT の人々がたくさん存在しているかもしれない。そして、それは単なる性癖ではなく個性なのだとすることに気づかせることから始めるべきではないでしょうか。そして、自分と違うからといって、自分の尺度を相手に押し付けて判断したり、評価したり、差別するのをやめるべきです。人はそれぞれ違って当たり前なのです。日本はまだまだセクシャルマイノリティに関する取り組みに関して遅れていると思いますが、今の若い学生達には、私の世代がしてきたような辛い思いをしてほしくないと思います。龍谷大学は非常に民主的な大学です。セクシャルマイノリティに関するこれからの積極的な取り組みに期待しています。

主な自由記述【教職員：非当事者】

- 大学の構成人数も多いので、一定数の LGBT の方が潜在的に存在すると思う。LGBT の方に接した経験がないとそういった方のことを理解することができないと思うので、啓発的な活動などが必要なのだと思う。自分としても正しく理解し、差別的なことがないようにしたい。
- 最近、女子トイレ内に不審者が入っていたとの張り紙が学内各所に貼られているが、そこで「男

性不審者」と性別表記がされていることには違和感がある。女性か男性かあるいはそうでないかは不審人物であることと本来別の問題であるはずであり、「不審者」とするだけでよいのではないか。

- このアンケートでどのように「適切な取り組み」に繋がるのかがわからない。問題が水面下に存在していても、それを表に出すような設問項目になっているだろうか？「男らしい」「女の子らしい」という表現も、当事者には苦痛に感じることもあるはず。嘲笑的差別的言動には当たらないものの、当事者には差別的と感じる事案もあるはず。見方を変えればこのアンケート自体がLGBTの当事者をあぶりだす役目を持っているように感じるかもしれない。安易なアンケートは、アンケートそれ自体が当事者を水面に押しとどめてしまうのではないかと危惧する。
- 就職支援に関して国内企業の理解の無さを痛感させられた事例があり、大学としての支援のあり方の方針が必要と考える。
- 中等教育段階での配慮も始まっており、遠からず大学でも支援体制が必要になると思う。高校までと違って、どこに相談したらよいかわかりにくいのが大学である。せめて入学ハンドブックの健康診断やフレキャンのところに「困ったことがあれば相談を」と記載されたい（相談例はあるが、潜在的に多くの学生が困っていることと思う）。性別違和についての相談窓口を設けることや多目的トイレを増やすことなどはある意味ですすめやすいと思うが、個人のシャドウカリキュラムの矯正には時間がかかることと思う。セクハラ対策を現在の形にするまでも20年以上の長い道のりが必要であったが、実態はともかく「セクハラはよくないこと」という認識は浸透しつつあると思う。ハラスメント防止規程にLGBTQや障害者への差別禁止を盛り込み、本学としての姿勢を明らかにすることから始めてはどうか。次に教学部門、人権論担当者と協力して「人権論運営委員会」などのような組織を立ち上げ、（授業担当者任せでなく）本学として学生に学んでほしい人権意識の内容を各分野の専門家が持ち寄って（基本的人権〜いじめ対策、性差別の禁止、LGBTQ・障害者への差別禁止、子どもの権利、労働者の権利、外国人の権利など）統一的に教えるなどの取り組みが考えられる。どんどん新しい取り組みをオーガナイズしている昨今の宗教部の動きを非常に心強く思い、期待している。ぜひ全学的な動きにつなげていただきたい。
- 講義でLGBTに関する内容を教えているが、龍谷大学でも、LGBTの当事者は数多くいると思われるので、メンタル・ケアや啓蒙活動など対策に力を入れてほしい。
- 龍谷大学の建学の精神にもとづいて、多様性を自然と認め合える風土づくりを期待します。
また、LGBTにQ（クエスチョニング※どちらでもない、迷っている）を加えてLGBTQが一般的になりつつあります。
- LGBTの学生がゼミにいて、就職活動を始める時期にカミングアウトしたが、ゼミメンバーは男女を問わず抵抗なく受け入れていたように思われる。人口の7パーセント程度がLGBTと想定されるので、教授会、ゼミなどのグループに一人や二人いても不思議ではないことを認識すべき。
- このアンケートは奇妙にも「ニーズの」調査であるということだが、集計・分析の結果、「龍谷大学ではLGBTに関する改善や取り組みはまだ不要」というような結論を導き出すようなことはしないでほしい。大学は社会全体に開かれているため、現構成員の「ニーズ」が問題なのではない。LGBTに関する取り組みは、全学的に進められるべきである。
- 問9の日本語が意味不明。
- LGBTは一定数必ずおられるので、過ごしやすい大学にしていきたいものです。
- LGBTの学生には、やや優しい環境だと思います。大学の積極的な態度は高く評価します。

- こうした活動の一環として、同じ関西圏の他の仏教系大学（たとえば、同じ真宗系の京都女子大や相愛大など）と共同の企画を立ち上げれば、地域の大きな動きにつながるものになるのではないかと期待しています。
- すべての人間に尊厳があるということ。龍大の場合は、それをしっかり真宗の立場から説明することが大事だと思います。
- 研修を増やし、理解を深めることが必要であると感じています。
- 学生の中には、「LGBTの問題に興味を持つ人＝LGBT当事者」という認識を持つ人がいます。そういう人たちは、イベントのチラシを受け取ることさえ拒否します。大学は、できるだけ低年次から、全ての学生に向けて、基礎的な啓発をもっと進めるべきだと思います。
- 11/19のイベントちらしで「にじりゅう」サークルの存在を知りました。LGBTは言葉として知っていてもテレビの先のことに感じていたと思います。偏見はないつもりでも無意識に傷つけていたり、見落としているのではないかと？もっと理解していかななくてはならないと思っていますので、今後も情報発信をお願いします。ダイバーシティマネジメントを本学の課題にしていきたいと思います。
- 今後、学内でますますこうした取り組みが活発化して、大学がセクシュアルマイノリティの方もそうでない方も、すべての方が安心して楽しく過ごせる場所になることを願っています。
- 学生のなかには、軽い気持ちでLGBTの人たちのことを冗談の対象にしたりするようなことも見かける。個人に対してはないと思うが、LGBTの人たちの人権に対する意識は低いように思う。
- 学科の特長として女子学生が少なく、対応できる女性教職員も少ない。セクシュアリティの悩みや問題については、同性で話ができることがとても大切だと思うので、女性スタッフがもっと沢山いないとダメだと思う。教職員の男女比が前近代的だと思う。
- LGBTQの当事者の方が、比較的気軽に相談できる場があることは存じておりますが、実際にどのような活動をされているのか、施策の実態を知る機会がないように思いますので、そうした機会があればと思います。
- 女性教員に対する差別、セクハラ、パワハラが多すぎます。ハラスメント委員会がもっとしっかり機能してください。
- 女子学生も教員からのセクハラで相談にいくと「訴えるのは、やめておいた方が良い」とアドバイスを受けると聞いています。これは、おかしいです。
- トランプ氏の米大統領選勝利の要因の一つに、「行き過ぎたポリティカル・コレクトネス」があげられてしまうように、差別解消を目指すには困難な時代になっていると思う。大学には、単なる啓発を超えた、より創意工夫を持った差別解消の取り組みを期待する。

龍谷大学におけるセクシュアルマイノリティの現状とニーズに関するアンケート報告書

2017 年 3 月 1 日発行

龍谷大学人権問題研究委員会

加藤 博史／吾勝 常行／吉田 哲／妻木 進吾／斎藤 司／金 紅実／道元 徹心

岸 政彦／嵩 満也／杉岡 孝紀／福島 至

事務局 龍谷大学宗教部（深草学舎顕真館）

〒529-1171 京都市伏見区深草塚本長 67

電話 075-642-1111(代)
